



ふじみだい

動き出す子どもたち

校長 山本 加奈代

学校再開から一か月となりました。各教室から子どもたちの声が聞こえ、学校に活気が戻ってきました。私たち教職員も子どもたちからたくさん元気もらっています。友達と並んで登校する姿、机に向かって熱心に問題を解く姿、友達や教師の話をうなずきながら聞く姿、自分の考えを伝えようと言葉を選びながら話す姿など、子どもたちは学校での日常を少しずつ取り戻しているところです。学校そのものをいつものように維持することが、社会の維持に欠かせないことであると改めて気付かされました。この度の緊急事態で、学校に日常があることが社会の安定につながることを再認識するとともに、そこに携わる一人として、喜びと責任感をより強く感じています。保護者の皆様、地域の皆様には、感染拡大防止に向けた取組や行事の変更等に対してのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。7月からは感染防止対策を講じながら通常授業となり、給食も始まります。それに合わせて、先日教職員の給食研修を実施しました。子どもたちが安心して食べられるように感染防止を強化して、給食時の流れや注意点を確認しました。1年生にとっては小学校での初めての給食です。元気の源である食は、生きる力を育みます。会食という形はできませんが、楽しい時間となるように工夫していきたいと考えています。日々の様々な教育活動を通して、子どもたちが心も身体も元気になれるように、学校が始まってよかったと思えるように、今後も教職員が一丸となって支援を続けていきます。保護者や地域の皆様にも、学校の様子をできるだけお伝えしたいと考え、不定期の更新ではありますがホームページ（「学校日記」）のアップ回数を増やしています。お時間のある時に、ご覧になってください。

本校の学校教育目標「たがいにひびき合う学校（学び合う・認め合う・生かし合う）」の実現に向けて令和2年度が本格的にスタートしましたが、今年度は保護者や地域の方々との交流など学校行事や教育活動の変更や中止を余儀なくされています。こういう時だからこそ、学校からの発信を増やし、子どもたちの様子を皆さんに知っていただくことで、心と心のつながりをつくっていききたいと考えています。

先日6年生が各学級で「だれもが安全・安心に、そして楽しく給食の時間を過ごせるために何ができるか」について、給食委員が中心となって自主的に話し合っていました。給食前の準備、給食中、給食後の片付けで自分たちができることを、具体的な場面を思い浮かべて話し合っていました。友達との間隔を取るために床にテープを貼ったらどうか、放送内容を工夫したら楽しめるのではないかなど、子どもの目線でできることを真剣に考える姿に頼もしさを感じました。話し合った内容を栄養士に伝え、検討してもらおうと動き出していました。これまでと同じことができない状況の中で何ができるのか、子どもたちは新しいことを生み出そうとしています。最高学年の6年生が前向きに困難を乗り越えようとする姿勢が、学校の原動力となっていると思いました。今月も、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。